

「第1回利益相反研修会」を開催

研究連携推進機構知的財産本部では、平成16年度から文部科学省の委託を受けて、「21世紀型産学官連携手法の構築に係るモデルプログラム事業」を実施しており、当該事業の環として、9月21日(木)に徳島プリンスホテルに於いて第1回利益相反研修会を文部科学省と共催し、私立大学や研究所を含む29機関から約80名が参加しました。

研修会では、渋谷雅之副学長(研究担当理事・知的財産本部長)、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室室長補佐から挨拶の後、同研修会に招聘したパネリストから自所属大学におけるマネジメント体制について発表続いて文部科学省室長補佐による用語解説を得て、利益相反状態を把握するための管理チェックシートによる管理手法についてパネリストによるディスカッションを行いました。

今年度の事業では、3回の研修会を開催予定で、管理手法の構築や事例集の発行を目指しています。

■エンジンアラインングフェスティバル 2006開催

大学院シオテクノサイエンス研究部では、本年で6回目となる「エンジンアラインングフェスティバル2006」を9月29日(金)に知的財産本部との共催で開催しました。

当フェスティバルは、同研究部等における研究成果を広く地域の人々に公開し、地域における科学技術の振興の一助となることを目的とする。とともに、本研究部の研究活動の情報公開や研究内容の説明責任、企業の方からの共同研究のシーズの提案なども視野に入れて実施しています。



「参加者からの質問コーナー」では、会場からホームページやブログに関する質問や要望などが多数寄せられ有意義なタウンミーティングとなりました。

■メンタルヘルス講演会開催

徳島大学では、10月を労働衛生月間と位置付け、教職員を対象としたメンタルヘルス講演会を、10月3日(火)、10月16日(月)の2日間、常三島、蔵本の両キャンパスで延べ4回にわたって開催しました。

この講演会は、メンタルヘルスケアに関して、個々の教職員の正しい理解と、組織全体で取り組むことの重要性について認識を深め、教職員の心の健康づくりを推進し、より活気のある大学づくりを目指して、昨年に引き続き実施したもので、約三百名の教職員が出席しました。

講師には横浜労災病院勤務者メンタルヘルスセンター長の山本晴義氏を招き、現状の職場環境における問題やメンタルヘルスに関する知識を



はじめ、管理監督者としての対応やストレス対処法等について、大学経営・リスクマネジメントの観点からも、より役立つ実践的な内容の講演が行われました。

■「勝浦タウンミーティング」開催

10月7日(土)、勝浦町において、徳島大学と徳島地域連携協議会の主催で、勝浦町との共催により、「ケーブルテレビ・インターネットで何かが変わる」をテーマにタウンミーティングを開催しました。

会場には約300人が参加し、黒田副学長及び中田勝浦町長の挨拶の後、同町笠松主事補から勝浦郡の情報通信基盤整備事業の説明が行われた後、大学開放実践センターの吉田教授からインターネットやホームページで何ができ、何に役立つか、また地域情報化の本質等について説明がありました。

事例紹介「みんなで作る・使う町民ネット」では、勝浦町出身の工学部学生二人が、同町の産直市及び図書館のインターネット活用モデルを作成・提案し、発表しました。

「参加者からの質問コーナー」では、会場からホームページやブログに関する質問や要望などが多数寄せられ有意義なタウンミーティングとなりました。



■若手研究者を学長表彰

徳島大学では11月2日(木)「徳島大学若手研究者学長表彰」制度による学長表彰式を行いました。

この表彰制度は、若手研究者の研究能力の向上を図ることも、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進することを目的に、平成18年度に新設したものです。

初回となる今年度は、全学から17名の部局長推薦があり、研究業績、所属部局独自の支援策、将来性を総合的に評価して40歳未満の若手研究者4名を表彰し、学長から賞状と研究支援経費として100万円の支給目録が手渡されました。

また、日頃学長室に立ち寄る機会の少ない若手研究者を学長室に招き、学長と受賞者が日頃の研究活動等について歓談しました。



■第54回徳島大学学祭開催

11月3日(金)～5日(日)までの3日間の日程で第54回徳島大学常三島祭及び第22回徳島大学蔵本祭が、3日間ともに晴天に恵まれ開催されました。

今年の常三島祭テーマ「和・warm」には、様々な人達とふれあい、和んだりすること(和)、改めて人の温かさを感じる(warmth)の大切さ、地域の方々をはじめ多くの人々とのつながりを感じる(和・warm)で、

どんな困難も乗り越えられると思いが、蔵本祭テーマ「PIECE X PIECE」には「一人一人のPIECEを繋ぎ合わせれば、人では出せない大きな力が出せ、そこから何かが生まれる」との思いが込められています。

主な企画の入場者概数は、常三島祭の「中の森BAND LIVE」に350人、「ハートフルライブ」に300人、ファイヤーストームに1000人、大学開放実践センター企画に120人、学生相談室企画に230人が参加し、常三島祭3日間の総入場者数は約7,000人でした。また、蔵本祭の「サスケライブ」に450人、「吉



常三島祭



蔵本祭

本ライブ」に1,100人、「解剖病理展」に380人、「栄養展」に450人が参加し、蔵本祭3日間の総入場者数は約6,100人でした。

■叙位叙勲

平成18年秋の生存者叙勲を次の方が受章されました。

叙位叙勲

瑞宝中綬章

岡本卓夫

元徳島大学総合科学部教授
徳島大学名誉教授
教育研究功勞

瑞宝中綬章

下村滋

元徳島大学薬学部教授
徳島大学名誉教授
教育研究功勞

瑞宝小綬章

松本道雄

元徳島大学事務局長
文部行政事務功勞

■学生の保護者代表と学長との懇談会

平成18年11月8日(水)、工学部共通講義棟大会議室で「学生の保護者代表と学長との懇談会」を開催しました。

この懇談会は今回で8回目となるもので、各学部生の保護者代表12名と青野学長、川上副学長、黒田副学長、小林副学長及び各学部長等が出席しました。

最初に青野学長から徳島大学の現状について、黒田副学長から地域連携について、中川就職支援室長から就職状況についての説明があり、引き続き、保護者代表から学内環境、国際交流、修学、就職等について意見・質問が出され、徳島大学の教育・学生支援への取り組みに対する関心の高さを再確認させられる懇談会となりました。



■大学院生・学部卒業予定者と学長との懇談会開催

平成18年11月27日(月)、日亜会館会議室で「大学院生・学部卒業予定者と学長との懇談会」を開催しました。

大学院生との懇談会は今回で6回目となるもので、各研究科・教育部の大学院生14名が、学部卒業予定者との懇談会は今回で8回目となるもので、各学部の卒業予定者9名が、大学側からは青野学長、川上副学長、渋谷副学長、小林副学長及び各研究科・教育部長・学部長等が出席しました。

青野学長から徳島大学の現状について説明があった後、事前に寄せられた学生からの意見・質問を基に、川上副学長、各研究科・教育部長(学部長)等から各部局の現状説明を含め、回答がなされました。

学生からは、修学、大学生生活、施設・整備、進路・就職等について活発な意見が出され、有意義な懇談会となりました。

